

緩和的化学療法とは

副作用を極力出ないように工夫し、抗がん剤の投与量を推奨量の 1/2~1/4 などに減量して投与し、がんによる苦痛(疼痛・食欲不振、呼吸苦など)を少しでも軽減する治療。

患者さんが希望されれば、推奨量まで徐々に増やしてゆくことも可能。必要に応じて、放射線治療も併用できます(他院の協力を戴きます)。

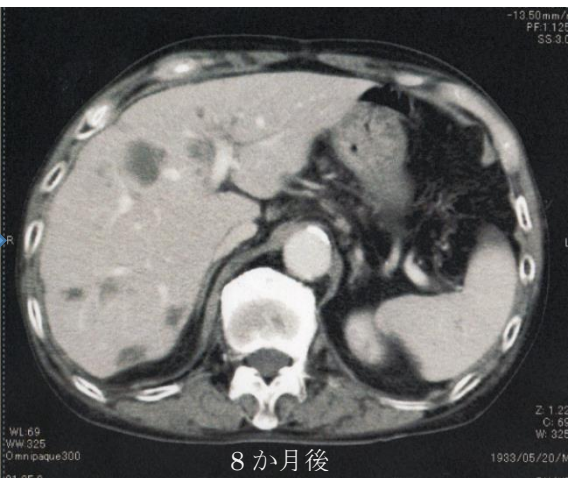
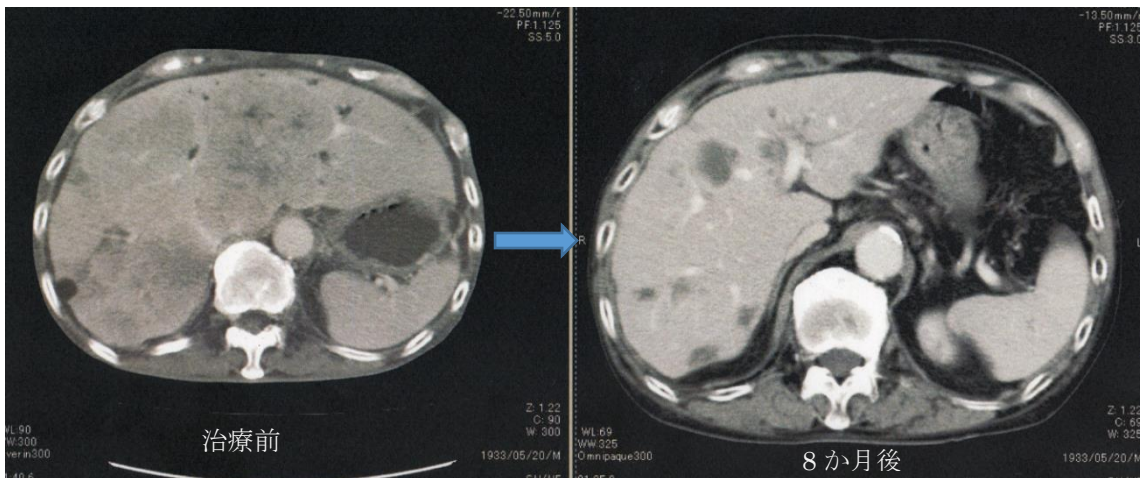
<症例1> 進行胃癌の肺への転移によるがん性リンパ管症(72 歳男性)

推奨量の半量のシスプラチンと5FUを間欠投与。



<症例2> 進行胃癌の多発肝転移(75 歳男性)

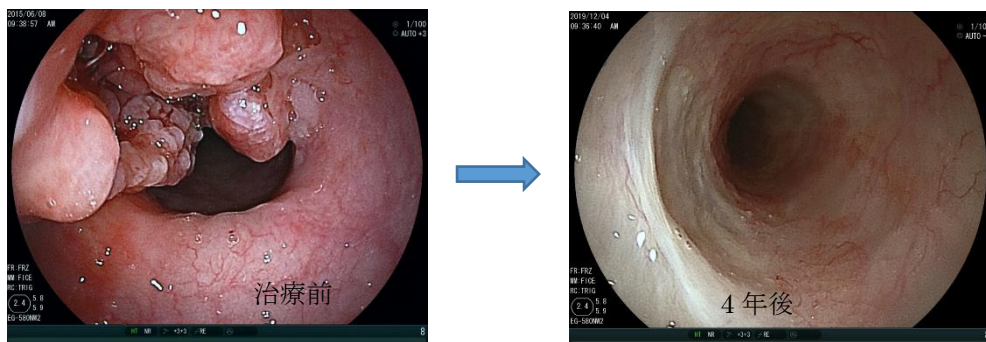
推奨量の 1/3 量のシスプラチン、ドセタキセル、5FUを間欠投与。



8か月後

<症例3> 進行食道がん(74歳男性)

他院協力での放射線治療 60Gy + 推奨量の 1/3 量のドセタキセル + 5FU 投与



注; すべての方に、上記同等の効果が得られるわけではありません。